

トピック…おもちゃの病院ドクターくるりん、神奈川県立平塚盲学校を往診、17個のおもちゃ教材を修理、感謝を受ける

平成26年7月22日(火)午前10時から12時の間 おもちゃの病院ドクターくるりんチームは県立平塚盲学校を往診した。



3人のドクターの前に修理を待つ17個のおもちゃが並んで待っていた。



目にハンデある子供たちにとって、いろんな音が出たり、うーうー動くおもちゃは大切な遊具であり且つ重要な教材とのこと。放水梯子消防車やパトカー、ジェット機などおなじみのおもちゃの他、算数や家庭科に使用している点字付きの秤、言葉や数字のゲーム機、生徒と教師を音声で繋ぐレコーダー録音器など盲学校特有のおもちゃがありました。



11個は即修理済ませ治癒返却、6個は入院治療することになった。

レベル高い難しい修理になるがドクター3人は猛暑を忘れ子供たちの為にとがんばることとなった。



校長先生や教頭先生、担当の先生など入れ替わり立ち代わりお見えになり、目の障

害の程度も様々で見ること、聞くこと、触ることが子供の発達:教育の基本方針にされているとのことで、おもちゃの病院事業は大層感謝されました。

ドクター一同やりがいを感じた県立盲学校への往診事業でした。



17個のおもちゃ一覧

>①レジスター= Nドクター 治癒

②ドラム= 同 治癒

③ ピアノ= Oドクター 治癒

④ラジ カセ= Iドクター 治癒

⑤ スピーキングブック= 同 治癒

⑥点字 秤その1= Oドクター 治癒

⑦点字秤その2 =同治癒

⑧おたまじゃくし 黒マイク = Iドクター 治癒

⑨ 時計 =Oドクター 治癒

⑩ お魚トラック=Iドクター 治癒

⑪放水梯子消防車=Oドクター 治癒

- ⑫ パトカー =Nドクター 入院
- ⑬ アンパンマンピアノ絵本=Oドクター 入院
- ⑭ サウンドえほん=Iドクター 入院
- ⑮ ランゲージレコーダ= 同 入院
- ⑯ ジェット機 =Nドクター 入院
- ⑰ カチコチとけい=Oドクター 入院



神奈川県立平塚盲学校

平塚盲学校は平成22年には創立100年を迎える、長い歴史と伝統を持つ学校である。県内には他に横浜市立盲学校と、同じく横浜市に私立訓盲学院があるが、本校は唯一の県立盲学校として、現在神奈川県全域を対象として様々な支援を行っている。

【幼稚部について】

本校幼稚部は、昭和45年の設置以来、0歳から6歳までを対象として、年齢や発達の様子、生活環境、保護者のニーズ等に合わせ、週1回から月1回程度の頻度で、午前あるいは午後に1時間半から2時間程度、基本的には一対一の個別指導を中心

とした教育相談(相談指導)を行ってきた。

教育目標

1. 友だちとよく遊ぶ
2. 元気な体を作る
3. 見る・聞く・触る経験を増やす
4. 自分からやってみようとする心を育てる

保育の紹介

『自由遊び』

外遊びでは、自転車やブランコ・砂遊びを、室内ではプラレールや音の出るおもちゃ・ブロック・おままごと・お店屋さんごっこなど、自分で好きな遊びを見つけていきます。友だちと関わりながら楽しんで遊べるよう、環境を設定しています。

『設定保育』

集団で出欠や日にち、天気の確認、季節の歌や手遊び、季節の果物や植物を触って観察などを行います。手遊びではボディーイメージをとらえ、手指の基本的な動きを取り入れています。昨日の出来事や今日学校で何をやったかを、友だちや先生に伝える練習もしています。

『造形遊び』

紙・粘土・プラスチック容器などの様々な素材の感触を経験し、手指をたくさん使って遊びながら、イメージを持って作品を作ることができるように働きかけています。はさみやのり・セロテープ・筆・へらなどの道具の使い方も覚えます。

『音楽リズム』

音楽に合わせて友だちと一緒に歌う・手遊びをする・踊る・楽器を鳴らすなどを行い

ます。時には楽しい曲に合わせて、先生に触ってもらう「ふれあい遊び」もあります。

『運動遊び』

マット・ボール・平均台・トランポリン・鉄棒・固定遊具などを使った運動や体操、走ることなどから自分で体を動かす楽しさを味わい、体を動かす事への意欲を育てています。公園での散歩では、歩行を確実にし、アスレチックでいろいろな運動を体験しています。

『基本的生活習慣』

食事・衣服の着脱・排泄・衛生などの基本的生活習慣の確立をめざし、グループや個別で自立に向けて取り組んでいます。ご家庭との連携を大切にしています。

『課題遊び(個別の活動)』

一人一人の幼児の発達や状況に応じて課題を設定していきます。触る・見る・聞くなどの感覚を育てながら、「手指の操作」「探索」「認知力の向上」などを養っていきます。

県立平塚盲学校の教育方針と実践活動に敬意を表するとともに、おもちゃの病院ドクターくるりんとして今後も連携を深め少しでもお役にたつよう協力して行こうとドクター達は誓い合いました。